

鹿児島県野間池沖から得られたボウズカジカ *Ebinania brephocephala* (カサゴ目：ウラナイカジカ科) の記録

目黒昌利¹・本村浩之²

¹ 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-24 鹿児島大学大学院連合農学研究所

² 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

■ はじめに

カサゴ目ウラナイカジカ科 (Scorpaeniformes: Psychrolutidae) は世界で 8 属約 35 種 (Nelson, 2006), 日本からは 6 属 11 有効種が知られている (中坊, 2000). そのうちアカドンコ属 *Ebinania* は世界で 6 種が有効種として認められており (Nelson, 1982; Jackson and Nelson, 2006), 日本近海にはボウスカジカ *E. brephocephala* (Jordan and Starks, 1903) とアカドンコ *E. vermiculata* Sakamoto, 1932 の 2 種のみが分布する (中坊, 2000; Jackson and Nelson, 2006).

ボウズカジカは日本近海のみ分布し, これまで福島県から高知県にかけての太平洋沿岸で知られていたが (中坊, 2000), 最近 Shinohara et al. (2005) は東シナ海 (31°11'24"-60"N, 128°23'48"E) の水深 392 m から採集された本種 1 個体を報告した.

2010 年 9 月 10 日に鹿児島県南さつま市野間池沖で, ボウズカジカと同定される標本が 1 個体採集された. この標本はボウズカジカの東シナ海からの 2 番目の記録となるとともに, 九州沿岸域からは初めての記録となるため, ここに報告する.

Meguro, M. and H. Motomura. 2011. Record of *Ebinania brephocephala* (Scorpaeniformes: Psychrolutidae) from Nomaie, Kagoshima, southern Kyushu, Japan. *Nature of Kagoshima* 37: 27-29.

✉ MM: The United Graduate School of Agricultural Sciences, Kagoshima University, 1-21-24 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan (e-mail: fisheries_kago_mmm7190@hotmail.co.jp).

■ 材料と方法

計数・計測は Nelson (1980) にしたがって, 脊椎骨数の計数には X 線写真を用いた. 計測はデジタルノギスを用いて 0.1 mm の単位まで行った. ボウズカジカの生鮮時の体色の記載は, 固定前に撮影されたカラー写真に基づいて記載した. 本報告に用いた標本は, 鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM: Kagoshima University Museum) に保管されており, カラー写真も同館の画像データベースに登録されている.

■ 結果と考察

Ebinania brephocephala (Jordan and Starks, 1903)

ボウズカジカ (Fig. 1; Table 1)

標本 KAUM-I. 31286, 標準体長 81.5 mm, 鹿児島県南さつま市野間池沖 (31°30'N, 129°53'E), 水深 370-400 m, トロール, 2010 年 9 月 10 日, 山下真弘・大橋祐太.

記載 計数値と体各部の標準体長に対する割合を Table 1 に示す. 頭部は大きい. 躯幹はやや短く円筒状で, 尾に向かって徐々に細くなる. 頭頂部は平坦で, 眼上部から背鰭基部に向かってなだらかに傾斜する. 眼は頭部前方に位置し, 吻は丸みを帯びる. 口は大きく前位で, 上顎後端は踵後端に達する. 前上顎骨と歯骨には鋭い絨毛状の歯が不規則に 2-3 列ある. 鋤骨には 1 対の絨毛状歯群がある. 口蓋骨には歯がない. 体はなめらかなゼリー状の皮膚に覆われ, 突起や皮弁がない. 鰓孔は大きく, 左右の鰓膜が峽部と癒合するが, 同



Fig. 1. Fresh specimen of *Ebinania brephocephala*. KAUM-I. 31286, 81.5 mm SL, off Nomaike, Minami-satsuma, Kagoshima, Japan.

所には皮褶が形成されない。各鰭棘条部はゼリー状の皮膚に覆われ、背鰭の棘条と軟条の間は鰭膜が浅く湾入する。

体色 生鮮時は地色がうすい肌色で、頭部および体側上部には濃緑色の不明瞭な虫食い模様がある。胸鰭には2本の不明瞭な濃緑色横帯がある。固定後、地色は黄色がかった肌色で、頭部、体側上部および胸鰭の濃緑色の模様は黒色素として残る。

分布 本種は日本近海のみ分布し、福島県から高知県にかけて(中坊, 2000)と鹿児島県(本研究), 東シナ海(Shinohara et al., 2005; 本研究)から知られている。

Table 1. Counts and measurements, expressed as percentages of standard length, of specimen of *Ebinania brephocephala*.

<i>Ebinania brephocephala</i>	
KAUM-I. 31286	
Kagoshima, Japan	
Standard length (mm)	81.5
Counts	
Vertebrae	31
Dorsal-fin rays	VIII, 14
Anal-fin rays	13
Pectoral-fin rays (left/right sides)	17/18
Measurements	
Body depth	26.4
Caudal-peduncle depth	6.7
Head length	37.0
Head width	26.0
Interorbital width ¹	18.0
Upper-jaw length	20.2
Snout length	12.5
Orbital diameter	14.2
Eye diameter ¹	7.0

¹ Measured between edges of skin that cover part of eye.

備考 本標本は左右の鰓膜が峽部と癒合し、同所を横切る皮褶が形成されない、背鰭の棘条部と軟条部は分離せず1基である、鋤骨に1対の歯群がある、頭部・体部に突起や皮弁がない、背鰭が8棘14軟条、胸鰭が17-18軟条であることなどの特徴から Jordan and Starks (1903), 中坊 (2000) および Jackson and Nelson (2006) らの記載と一致し、ボウズカジカ *E. brephocephala* と同定された。

本種は主に福島県から高知県までの水深50-171 mから採集されている(Watanabe, 1960; 中坊, 2000)。本研究と Shinohara et al. (2005) は、本種がこれまで記録されていなかった東シナ海から得られた標本を報告しているが、これらの標本はそれぞれ水深392 mと370-400 mから採集されており、東シナ海では高知県以北と比べて本種の生息場所がより深い水深であると推測される。ボウズカジカは分布海域が低緯度になるほど適水温を選択するためにより深い環境で生息している可能性が高い。東シナ海産の2標本の採集場所は、大陸棚縁辺の水深200 mから沖縄舟状海盆に向かって深くなる陸棚斜面上であり、ボウズカジカが東シナ海の大陸棚斜面沿いに広く分布している可能性が示唆される。

Ebinania brephocephala は、Jordan and Starks (1903) によって駿河湾の水深171 mから採集された1標本に基づき *Cottunculus brephocephalus* とし

て新種記載された。その後、Jordan et al. (1913) は原記載を引用して和名 Bōzu-kazika (ボオズカジカ) を提唱した。同年、Tanaka (1913) は東京市場で購入した標本をボウズカジカとして報告したが、彼が使用した標本は全長が 406 mm, 上顎骨から頤部喉部, および胸部にかけて肉質突起物がある (Tanaka, 1913) ことから, ボウズカジカではなく後に阪本 (1932) によって記載された *E. vermiculata* の可能性が高い。

阪本 (1932) は岩手県沖から採集された 1 標本に基づき *E. vermiculata* を新属新種として記載し, 同時に和名エビナカジカを提唱した。その後, 岡田・松原 (1938) は *E. brephocephala* と *E. vermiculata* をそれぞれバウズカジカ (アカドンコ) とエビナカジカとし, 松原 (1955) はボウズカジカとアカドンコ (エビナカジカ), Watanabe (1960) はアカドンコとエビナカジカとした。松原 (1955) はボウズカジカがアカドンコ (エビナカジカ) と混同されていると記しており, 当時は和名が混同して使用されていたものと考えられる。3 つの和名が混同され使用された両種だが, 現在 *E. brephocephala* と *E. vermiculata* の標準和名にはそれぞれボウズカジカとアカドンコが適用されている (中坊, 2000)。

■ 謝辞

本研究を行うに当たり, 標本採集にご協力下さった鹿児島大学総合研究博物館魚類分類学研究室の山下真弘氏と大橋祐太氏, 軟 X 線写真の撮影にご協力下さった同館の橋本達也氏に深謝する。標本作製や登録を手伝って下さった同大学総合研究博物館ボランティアの原口百合子女史に厚くお礼申し上げる。本研究は, 鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロ

ジェクト」と国立科学博物館の「黒潮プロジェクト (浅海性生物の時空間分布と巨大海流の関係を探る)」の一環として行われた。

■ 引用文献

- Jackson, K. L. and J. S. Nelson. 2006. *Ebinania australiae*, a new species of fathead sculpin from southern Australia (Scorpaeniformes: Psychrolutidae). Records of the Australian Museum. 58: 37–42.
- Jordan, D. S. and E. C. Starks. 1903. Description of a new species of sculpin from Japan. Proceedings of the United States National Museum. 26 (1326): 689–690.
- Jordan, D. S., S. Tanaka and J. O. Snyder. 1913. A catalogue of the fishes of Japan. Journal of the College of Science. Imperial University, Tokyo, 33 (1): 1–497.
- 松原喜代松. 1955. 魚類の形態と検索 I–III. 石崎書店, 東京, xi + v + 1605 pp., 135 pls.
- 中坊徹次. 2000. ウラナイカジカ科. pp. 651–653. 中坊徹次 (編), 日本産魚類検索. 全種の同定. 第 2 版. 東海大学出版会, 東京.
- Nelson, J. S. 1980. *Psychrolutes sio*, a new psychrolutid fish (Scorpaeniformes) from the southeastern Pacific. Canadian Journal of Zoology. 58: 443–449.
- Nelson, J. S., 1982. Two new south Pacific fishes of the genus *Ebinania* and contributions to the systematics of Psychrolutidae (Scorpaeniformes). Canadian Journal of Zoology. 60: 1470–1504.
- Nelson, J. S. 2006. Fishes of the World. 4th ed. John Wiley & Sons, Inc., New Jersey. xix + 601 pp.
- 岡田弥一郎・松原喜代松. 1938. 日本産魚類検索. 三省堂, 東京, pp. 584, 113 pls.
- 阪本喜代松. 1932. カジカの 2 新属 2 新種. 水産講習所研究報告. 農商務省水産講習所, 27: 1–6.
- Shinohara, G., T. Sato, Y. Aonuma, H. Horikawa, K. Matsuura, T. Nakabo and K. Sato. 2005. Annotated checklist of deep-sea fishes from the waters around the Ryukyu Islands, Japan. Deep-sea fauna and pollutants in the Nansei Islands. Monographs of the National Science Museum Tokyo. (29): 385–452.
- Tanaka, S. 1913. Figures and descriptions of the fishes of Japan, including Riukiu Islands, Bonin Islands, Formosa, Kurile Islands, Korea and southern Sakhalin. Vol. 11. Maruzen Co. Ltd., Tokyo, pp. 187–198, pls. 51–55.
- Watanabe, M., 1960. Fauna Japonica Cottidae (Pisces). Tokyo Electrical Engineering College, Tokyo, vii + 218 pp., 40 pls.